

八雲藍の
教育的指導

ADULT ONLY



あの大きくて
立派な尻尾……
いち、にい、さん……



…9本ある！
やっぱりあの人が
八雲藍さま
だったんだ！



毎度お〜!!



モワ

油揚げ好きの
ただの妖怪狐の
おねえさんだと
思ってた…

モワ

なんか優しそうだし、
ちやんとお願いしたら
尻尾モフモフさせて
もらえないかな…

…やっぱ
無理かな？

追いかけて
お願い
してみようかな…







ら、藍さまの
その立派な尻尾を
モフモフさせて
ください…!

!



この尻尾の良さが
判るとは、なかなか
見処があるな

お願い
します!

だが
若さゆえか…
残念だ…

坊やは
妖怪を舐め過ぎて
いるわね…

え…?

式神「仙狐思念」



人里から出たら
妖怪に喰われても
文句は言えんぞ!!

!!

ビクッ



藍
なにを
遊んでるの？

ガッ
ガッ
ガッ



藍

これくらい
派手に化かせば
流石に懲りるだろう
スマンな…



勝手について来られて
本当に喰われでもしたら
寝覚めが悪いしな…

※外見は幻覚です。

グルル



まあいいわ：
頼んでおいた事
やってくれた？

ゴッ
ゴッ
ゴッ

はい！
それはもう
バツチリ！



呼ばれたら
返事くらい
しなさいな

ビュッ

あ、ハイ！
すみません！

バツチリ
拙い状態だ…

咄嗟の事に
思わず坊やを
匿ったは良いが…

ドキ
ドキ
ドキ
ドキ

慌ててスペース
作ろうとガニ股に
なった後…



裾から坊やが
見えない様にと
前傾になった
せいで…



むぎゅっ…

坊やが
大変な事に…!!

紫様の目の前で
何をしてるのだ
私は…!!

やってくれたなら
いいけど…

私はまた
暫く寝るから…
引き続きよろしくね

ハイ!
お任せを!

気付かれ
なかったかな…



うう…なんだか
猛烈に情けない所を
見られてしまった…

モゾ
モゾ…



それと…

つまみ喰いも
程々にね

ごすよねー

しっかり
バレてた…!!



か、顔を
突っ込んだまま
喋るんじゃない…!



ど、ドンマイです
お、おんあいえふ
あんさま…!
あんはま…!

ピクッ

ぎわ
ぎわ



なんで笑ってるのよ！
私の変化、怖く
なかったの？

てへへ…

ぎゅん

うん



怖くて目を
閉じてたけど

目を開けたら
藍さまのおしりが
目の前にあって
天国だったから…♡

はあ…

あきれた…

一人で妖怪の後を
つけてくるだけあって
たいしたタマね、坊や…



お尻、柔らかくて
いい匂いでした♡

くる

そ…そう？
ありがとう…？

って、違う！
誤魔化すな！

主の前で恥を
かかされた落とし前、
どうつけてくれる？

たっ

うん





ヒキ♡
ヒキ♡

まったく…
そんな変態坊やには
少しキツめの教育を
してやろうか…!



どうやら
性的な意味で
喰われたいとみえる

それっ



これに
懲りたら…



ほおら♡
いつまで余裕で
いられるかな?

ゆっさ♡

なんでも
度が過ぎたら
苦しいでしょう?



おとなしく…

ヒク♡

ビク♡



ゆっさ♡

むぐぐ…

ゆっさ♡

ゴッ

なんで更に
バッキバキに
なってるのよ!?

ひあわせで
あへへふす
♡

これは予想以上の
ド助兵衛だわ…

この据え膳を
つままないのは
狐としての沽券に
関わるわね♡

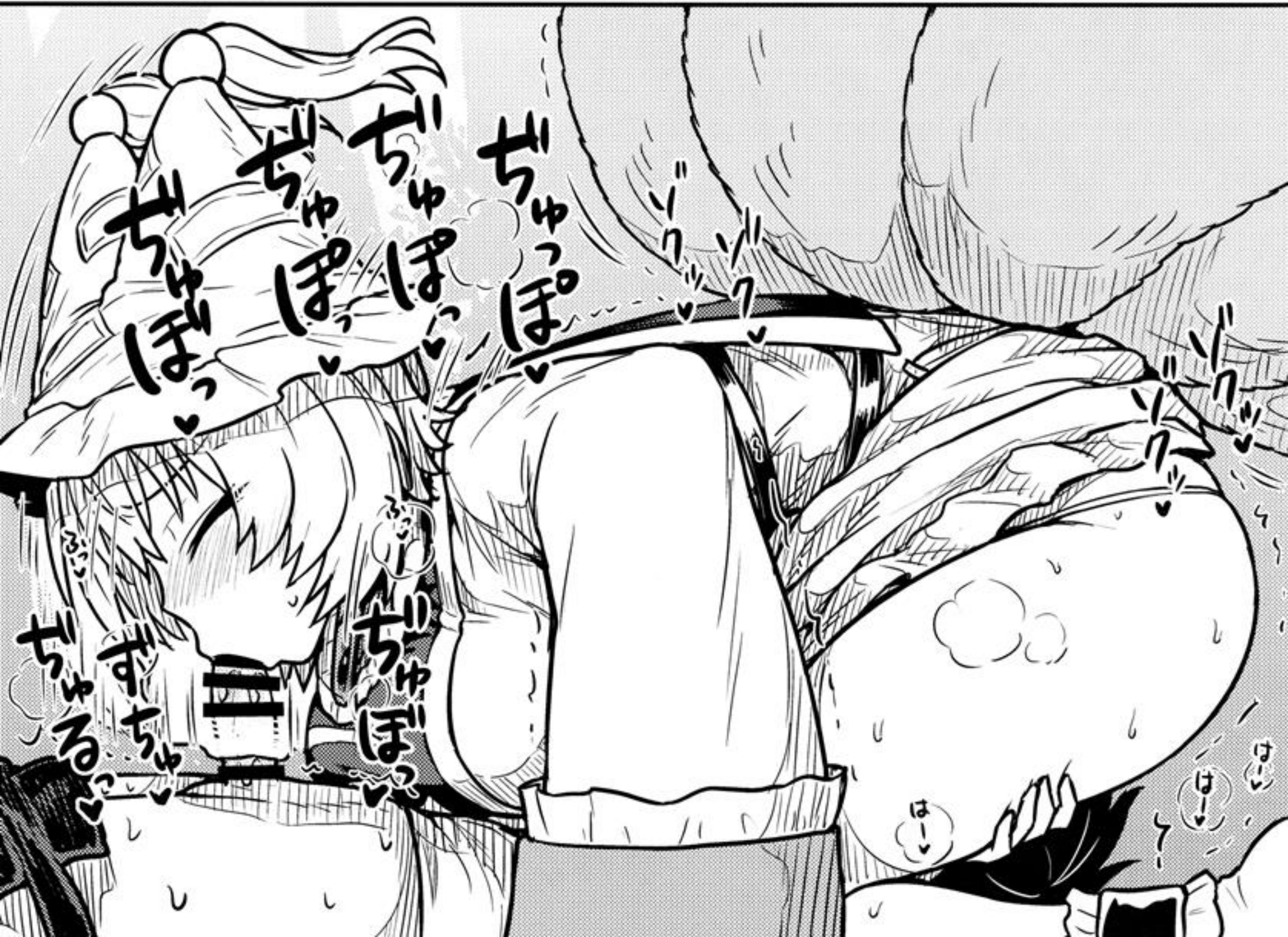
まったく…
こんなにして…♡

たろ♡

は♡

ドキ♡

ドキ♡







ふー…♡

狐につままれた気分はどうだい？



ひ…一人でするのと
ぜんぜんちがって…
きもちよすぎた…♡

しあわせ…♡

まだ余裕
あるようね♡



さて、と…

私も今ので
スイーツが入って
限界な訳だが…

ぬぎっ



もちろん、坊やも
メインデイツシュまで
味わっていくんだらう？





いま、
食べやすい様に
準備してあげるから



ちよつと待って
なさいね♡



ふっ…♡

あら？ 坊やの方は
私が食べやすい様に
準備はしてくれないの
かしら…？



スルッ



し…
します！



んはっ♡

ずる...

おま...

このまま下へ
参りまゝす♡



坊やのそういう、
欲望に素直な所は
好感が持てるねえ♡

いいこ
いいこ♡

ほで
ほで



まじゅっ

きもちいい...♡

おちんちん前に
到着しました♡



どんどん
下がります♡

たぶ...

ずり...
ずり...

まじゅっ

やはりコレはコレで
人の血肉とは違った
良さがあるねえ…♡

さあさあ♡
まだイケる
だろう？

特別に
尻尾のベッドにも
乗せてやろうか？

!?

乗りたい…!!

モフッ

ぽ

それじゃあ次は
坊やに動いて
もらおうかな♡

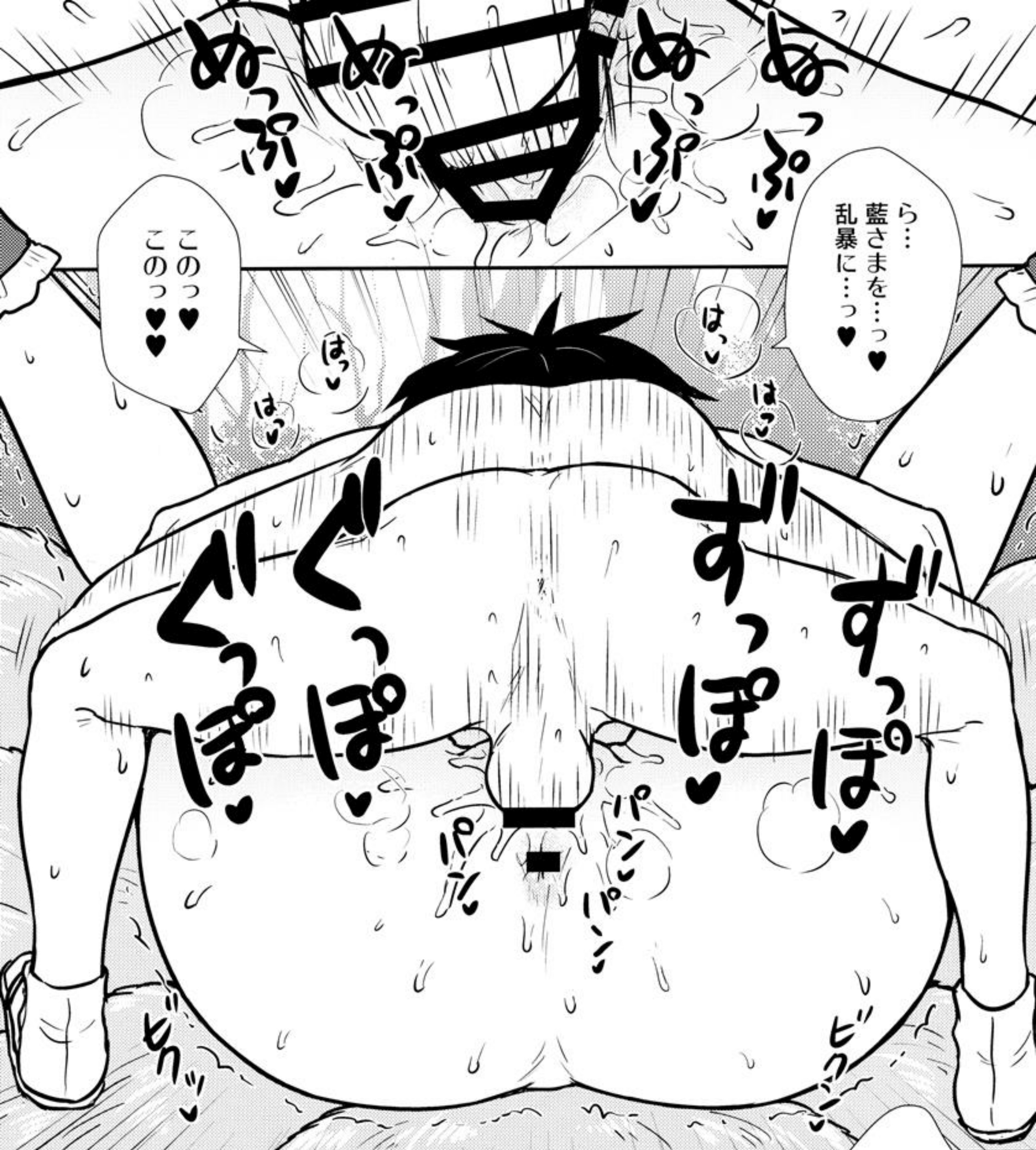
ど…
どうすれば…

大丈夫♡
ちゃんと私が
指導してあげる♡

はぁ…







ら…
藍さまを…っ
乱暴に…っ

このっ
このっ
っ

はっ

ずずず
ほほほ
おっ
おっ
おっ

ちよ…
ちよ…
待っ…

あっ…
あっ…
やば…
だ、だめっ





ピクッ
ピクッ

♡♡

ピクッ
ピクッ

ピクッ
ピクッ

ブルッ

ピクッ
ピクッ



いやあ...♡
坊やの事を
甘くみてたよ...♡

おっと...

坊や良い子だ
ねんねしな
だな...♡

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

気が付くと
人里に入って
すぐの所に居た

きつと
藍さまが送って
くれたのだろう…

急に、昔読んだ本で
こういう別れ方した話は
二度と会えなかったな…
というのを思い出した

—後日

おや、坊やも
お使いかい？

感心感心

そのうち、
また狐がつまんで
やろうかい？

別に
そんな事は
なかった



奥付

あとがき

発行日:2016年08月13日 (C90)
発行 :110-GROOVE
著者 :イトウゆうじ
原作 :上海アリス幻楽団 東方Project

URL:<http://www.r20.7-dj.com/~ug110/>
twitter:ug_110 pixiv:14192

印刷 : みかんの樹 様

この本は東方プロジェクトの二次創作です。
18歳未満の方の購入、閲覧は禁止です。
無断転載、アップロードなども禁止です。

思い切って液タブ(13HD)を購入しまして
今回の夏の原稿から使ってみております。
板タブの頃より肩こりがヒドくなったので
姿勢の見直しが必要だと思いました。

日記かよ。

110-GROOVE